



第5～7回の環境サロン

8月27日の川辺真也さんは、地域づくりを進めるには、それぞれが得意分野を活かして積極的に行動する。活動が自分・相手・第三者のWin-Win-Winが大事とされました。

http://www.ubekuru.com/blog_view.php?id=3191

9月10日の松岡修司さんは、山口県の学校教育における道徳教育の現状を詳しく紹介され、課題や地域とのかわりについて、議論をしました。

http://www.ubekuru.com/blog_view.php?id=3267



9月17日の白須道徳さんは、カタタ君や白鳥との思い出、自然の中で猿たちを遊ばせる動物園リニューアルのねらいを話され、課題や施設の活用法などについて議論をしました。

http://www.ubekuru.com/blog_view.php?id=3269

まちなか銀天おそうじ隊募集!



環境地域通貨「エコハ券」交付事業の対象です

「まちなか銀天おそうじ隊」は、月に一度、まちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードなどを掃除しています。メンバーはその日集まってくださった方。学生さん達歓迎です。楽しくおしゃべりしながら「まち」をちょっときれいにしませんか?

次回第46回は **10月31日(土)**

15:00から。

まちなか環境学習館前に集合です。

今回は日程変更で土曜日実施です。

裏面をご覧ください

環境サロンは、身近な環境問題などをテーマに、みんなで気軽に学びあえる場、語りあえる場です。

一度だけのご参加も歓迎です。ぜひ一度お気軽にご参加ください。(高校生以下無料です)

ところ…宇部市まちなか環境学習館銀天エコプラザ

第9回環境サロン

10/22(木) 18:00～

「宇部市の彫刻について」
三浦梨絵さん(緑と花と彫刻の博物館)

宇部市の貴重な芸術・文化的財産であり、観光資源でもある野外彫刻について、体系だったお話を聞き、今後の地域活性化や観光客誘致への活かし方などについて議論します。

参加料: 200円

(ただし100エコハ進呈)

第8回環境サロン

10/16(金) 18:00～

「医農食連携の取組について」
下村文博さん
(うベシニア生きがい創生ネットワーク・アイサ西部支部)

医学部、機能野菜の生産者、JA山口、県や山口大学の産業振興部門等が連携して、血管の異常収縮を防ぐ健康により食生活を目指す活動の取組についてお話を聞き、六次産業の新しい可能性について議論します。

参加料: 200円

(ただし100エコハ進呈)。

初めての方も、ご見学の方も
お気軽に来館ください

第18回まちなかエコ市場

11月7日(土)10:00～

野菜軽トラ市、フリマ、展示、人気のリユースグッズ、エコ教室、ステージなど。今回は軽トラも多く、ステージも充実しています。ぜひご家族連れでお出かけください。お待ちしております。



宇部市環境学習ポータルサイト 「うべっくる」



うべっくる

検索

<http://www.ubekuru.com>

宇部市のいろいろな環境学習拠点の紹介、環境関連のイベントのお知らせなど、随時更新しています。「銀天エコプラザ」の詳しい紹介もあります。

※ まちなか環境学習館や環境に関することについて、ご意見・ご質問等、お気軽にお寄せください。

ポータルサイト内のブログ、フェイスブックのコメント欄にもご意見をいただければうれしいです。ツイッターにも発信しています。

宇部環境国際協力協会 (UbeIECA アイカ)



アイカは宇部市がグローバル500賞を受賞した翌1998年に産官学民が連携して設立され、以来、海外からの研修員受入・専門家派遣などの環境技術協力や、国際協力や環境技術に関連した市民啓発などの事業を活発に行っています。これまで、50カ国から612名の研修員を受け入れています。

H26年度は主なものとして JICA 草の根でインドネシア国ブンカリス県に環境基本計画の作成支援を行い、同じく青年研修でアフリカの6カ国から13名の青年リーダーを受入れました。H27年度は CLAIR のモデル事業としてマレーシア国マラッカ州から5名を対象にごみの分別収集にかかる研修終了、JICA 青年研修でインドネシアから宇部方式を学ぶ13名を11月に受入、さらに JICA 草の根補正予算枠でブンカリス県の水道技術改善に係る支援を実施する予定です。

このような活動は、宇部市のような人口規模の都市としては全国的にもあまり例のない取組になっています。その

基本には 1950 年代に産官学民の連携で公害を追放した「宇部方式」の伝統により、企業、市民、大学等が行政と一体になって環境保全を進めていることがあり、それが国際的に評価されているということです。

今後ともどうぞよろしくご支援の程お願いいたします。



連絡先 755-0045 宇部市中央町三丁目 12-19
Tel/ Fax 36-3199 info@ieca.biz

環境歳時記 10月10日

カネミ油症事件が公表される (1968年)

1968(昭和43)年3月頃から夏にかけて西日本、特に福岡県や長崎県を中心に原因不明の奇病が発生した。

それは吹き出物や膿を持つ腫れ、手足の痺れ、皮膚への色素沈着、大量の目やに、肝機能障害などの症状を訴えて病院を訪れる人が急増してきた。

また、生まれてくる赤ちゃんの中には肌の黒い「コーラベイビー」という子も出てきた。

病院での医師の診断による原因は皆目見当がつかないものであったが、患者同士の話から、その共通項が「カネミライスオイル」かもしれないと噂はあったが、原因追究の為の油の分析などはなかなかされず、体が異常をきたす中、健康に良いと信じてライスオイルを使い続けている人もいた。

そうこうするうちに患者の一人が使用中のカネミ倉庫のライスオイルを保健所に提出、九州大学医学部および福岡県衛生部の調査、研究の結果、PCBの混入したライスオイルが原因と結論された。

このような一連の騒動に着目した朝日新聞は奇病が発生した家族を調査し、カネミ倉

庫製の米ぬか油をほぼ毎日食している事実を把握した上で1968年10月10日の朝日新聞夕刊(西部本社版)に「西日本一帯に奇病現れる」という見出しで記事を掲載した。その結果、事件が大きく全国に知れ渡ることとなった。

マスコミに大々的に事件が取り上げられると動きは早く、10月13日には九州大学や福岡県等が合同で、油症研究班が結成された。また15日には福岡県が北九州市にあるカネミ倉庫が製造した米ぬか油(ライスオイル)の出荷停止措置を取った。しかしすでに大きく広がった患者の数は1万4千名余りと日本最大の食中毒事件となった。

原因はライスオイルの製造過程で、脱臭の際に利用されていたPCB(ポリ塩化ビフェニール)が配管部からオイルに混入し、PCBが加熱されてPCDF(ポリ塩化ジベンゾフラン)というダイオキシン類が生成され、PCBの変異体であるCo-PCB(コプラナーPCB)とともに、ライスオイルを汚染し、これを口にしたためであった。

しかし、この事件の予兆は先に現れていた。この年の2月から3月にかけて鶏の餌につかわれていたカネミ倉庫製の「ダーク油」が原因で西日本一帯に鶏が大量死するという事件があった。

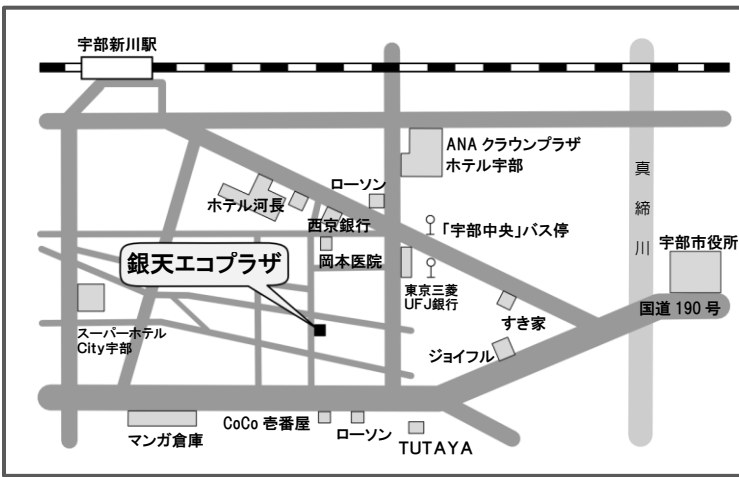
このダーク油こそ、ライスオイル製造過程

で生成する副産物で、この時にライスオイルについても調査しておれば事件は起こらなかったか、またはごく少数の被害者発生で済んでいた。まさに行政の怠慢から起こったカネミ油症事件と言っても過言ではない。

油症による障害は皮膚症状をはじめとして、神経症状、関節症状、呼吸器症状など実にさまざまな症状がみられるが、患者の認定基準が皮膚症状中心だったため、1万4千名余りの届出者数に対して認定された患者数は当初約1千900名にすぎなかった。原因物質の判明により認定基準が見直されたが、それでも最新の認定者数は2千276名(2015年3月31日現在)と大多数の方が救済の手もなく今もって苦しんでいる。

また経済的にも一旦約830名に支払われた損害賠償訴訟での仮払金はその後の患者の訴えの取り下げによって、仮払金の返還を国が求めるという事態が発生、それだけでなく肉体的な苦しみに喘いでいる被害者を二重に苦しめる結果となり、自殺者も出るありさまとなった。

ただこの仮払金については2007年6月に仮払金返還債権免除特例法が成立した。事件が明るみになってからはや47年経過するも根本的な治療法もなく、また大多数の方が救済の手が差し伸べられておらず苦しみの中に放置されているというのが実態である。(館長 西村 誠)



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目 11 番 21 号

交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail info@ubekuru.com

開館時間 9時~21時

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)